▲▲
▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
▲▲WATARIDORI 通信 ▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲▲▲
▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
Vol.9 ～～2010.10

おはようございます★こんにちは★こんばんは！！！今年度三回目のWATARIDORI 通信をお届けします。

先日から後期の授業が始まり、僕たち学生は夏休みにおける怠惰で無秩序な生活からいきなり厳しい現実世界へと引き戻されてしまいました。大学生の夏休みは長すぎる、という批判をしばしば耳にしますが、当事者としてはあまりにもあっという間に終わってしまった感が否めず、もう 10 月を迎えてしまいました。キャンパスを歩いていると、秋の訪れを肌に感じるような過ごしやすい季節になりました。

ワンゲルでは、例年に比べて厳しい今夏、予備合宿を幾度も重ねて体力と精神力を鍛練してきたメンバーたちが、恒例の三次予備合宿と夏合宿にチャレンジして無事長期合宿を成功させるに至りました。さらに有志を募って四万十川を流れ下ったイカダ合宿も八月下旬に行われ、一人一人が大学生の自由な夏を謳歌しました。今回のメルマガでは、その三つの合宿がどのようなものであったかを紹介させていただきたいと思います。

== Index==========

■3次予備　～五里霧中～
■夏合宿　～完全燃焼～
■夏 PW　～七転八倒～

==========

■ ―――――――――――――――――――――――――――――― ■

2010/8/11～16, 2010/8/14～19　3次予備
～五里霧中～

■ ―――――――――――――――――――――――――――――― ■

一回生にとっては初めての長期合宿で、夜行バスが初めてという人も多かったようです。上回生にとっても夏合宿にむけて重要な位置を占める今合宿では、１Party は白山へ、２、３Party は燕・常念へ行ってきました。天気は曇りがちでしばしば雨が降り、残念ながらガスで展望が望めないことも多かったのですが、良い経験・訓練になったのではないでしょうか。２日ほど先に発った燕・常念 Party は、一時暴風雨に見舞われ、危険箇所で強風注意のコールがまわるほどでした。一方白山 Party は初日・２日目こそゴアが手放せなかったものの、最終日はカラリと晴れ上がり、白山ピークで快晴という幸運に恵まれました。

ボッカに耐え、条件が悪くとも明るく乗り切ることを学んだ合宿でした。

（文責：田村）

==========

## ○*白山*

さて、今年も地獄の３次予備合宿の季節となりました。毎年一回生にとっては鬼のように重いボッカを背負いアルプスを攻めるという過酷なものですが、筆者も一回生の頃は本当にここで死んでもいいと思ったくらいです。というわけでしんどさは十分に伝わったかと思いますが、筆者のパーティーは白山へ行ってまいりました。一日目二日目は不運なことにずっと雨天だった為、霧の中をひたすら

突き進んでおりました。
　パーティーのモチベーションも若干心配になりかけた最終日三日目のことです、白山最高峰へと向かうにつれ奇跡が起こったのです。そう、天気の神様が我々に味方をしてくれて素晴らしい景色を拝むことができたのです。それは二日間の疲れも吹き飛ぶ程のものでした。こうして今年の三次予備も無事終了しました。

(基　54期　金里征治)

　合宿前のトレのときから全国的に天気は非常によく、酷暑日が続いていたのでこの合宿は天気が良いものだと確信し、とても楽しみにしていた。しかし現実は思っているほど甘いものではなかった。

　出発前に合宿中の白山の天気を調べたら、三日間とも雨だった。そして実際合宿中は天気が悪かった。最初の二日間の山行中はおおかたガスっていて一時的に晴れるときがあってもすぐに雲に覆われた。本来景色が素晴らしいと思われる稜線上を歩いているときもずっとガスに覆われ、気が沈んでいた。３次予備に行く前から夏合宿には家の用事でいけないことが分かっており、今年の夏はこの合宿にかけていたので非常に残念だった。
　ただ唯一救いだったのが最終日に天気が回復したことだった。僕は朝、撤収テンだったので起きた時、星空がきれいなのに驚いた。天の川がほんのうっすらとだが見えた。しかし休養日ではないのでのんびり空を見ている暇はなく、パッキング、テントの撤収を手伝っていたら空が明るくなってきて、星は気付いた時には消えてしまっていた。太陽が昇ってくると白山が見えた。青空が広がっており、昨日までガスの中にいた自分は、空は白いものだと思い込んでいたほどなのでびっくりした。白山からの景色はとてもきれいで、この日まで自分たちが歩いてきた稜線がはっきりと見えた。最後にいい景色が見られたよかった。

(工　54期　馬庭泰介)

### ○*燕・常念*

　個人的に燕・常念は北アルプスの中で一番行きたかった山だったので、今回の合宿はとても楽しかったです。ただ、雨の中の鎖場は生きた心地がしませんでした…
　上回生として初めてアルプスに登り、一回生の時には見えていなかった(隠されていた？)二・三回生の苦労や大変さを垣間見ることができました。夏に向けて気持ちが引き締まり、また、パーティーのメンバー同士で連帯感が生まれたので、とても充実した合宿だったのではと思います。惜しむらくは常念岳からの展望が真っ白だったことです。本当に何も見えませんでした(笑)

(法　54期　倉石彩子)

■ ―――――――――――――――――――――――――――――――――――― ■

## 2010/8/29～9/8　夏合宿
## ～完全燃焼～

■ ―――――――――――――――――――――――――――――――――――― ■

　夏合宿は、部の前期活動の集大成としてワンゲルの行事のなかでも特に重要な位置づけが伝統的にされてきました。それはひとえに、挑戦する山域の難易度の高さ、山行する道のりの長さ、そして合宿にかける日数、そのうちのどれをとっても、これまで積み重ねてきた体力と精神力を十二分に発揮しなければ、到底乗り越えることができないものであるからです。しかし当然のことながらこの合宿は苦行を強いるだけのものではなく、それを乗り越えた先で僕たちは、壮大な自

然における森羅万象の神秘と普段の生活では味わうことのできない達成感に出会うことができます。これらの素晴らしい“出会い”があるからこそ、僕たちは重くのしかかる歩荷や道の険しさ、また自分自身に屈することなく、互いに励まし合い、勇壮な山々を相手取ることができました。

今年度の夏合宿では、３つの Party とも 8/29 に大阪を発ち、1Party は甲府へ、2・3Party は上高地へと向かいました。その後 1Party は北岳を、2・3Party は槍ヶ岳を目指して、約十日の間、山の中の生活に臨みました。今回は３次予備と異なり、天候が僕たちの味方をしてくれたことが、合宿の成功を収めるうえで大きく貢献したといえます。悪天候に見舞われることも事故者や病人を出すこともなく、登頂した者だけに見ることが許される見事な景色を堪能して合宿を終了しえたことにより、さまざまな“出会い”があったこの合宿が、メンバーそれぞれの記憶のなかでかけがえのない思い出として色褪せることなく残り続けるであろうと思います。

（文責：井田）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

わーいわい、天候に恵まれたことがよかったと思います。雨が降ることはなかったため、テントが重くならずリーダーとしては一安心でした。肩の小屋から見える仙丈岳・甲斐駒ヶ岳の景色にはただただ感動するばかりでした。あそこにいれば他に何も要らなくなります。山小屋バイトもいいなぁと思います。農鳥岳から見えた富士山や北岳も素晴らしく、またいつかあそこに立つことができたらと考えてしまいます。今年このメンバーでこの山域に行けたことにとても感謝しています。楽しかったなぁ。

(1Party PL 法　53期　藤村治輝)

印象に残ったものを書きます。槍ヶ岳の雄大さ。槍ヶ岳からの景色。槍ヶ岳から見る三次予備のコース。鷲羽岳の形。梓川のきれいさ。槍沢のおいしい水。黒部川源流の冷たさ。駆け抜けた雲ノ平。槍ヶ岳山荘の裏庭に突き刺さってた謎の槍。槍ヶ岳山荘にあった大型液晶テレビ「REGZA」。そのテレビでやってた「ミヤネ屋」。おいしかった休養日のササミジャーキー。こんなもんですかね。感慨深いものばかりです。

(2Party PL　工　53 期　天野裕基)

――上高地から槍沢をひたすら辿り、流れる汗をふき顔をあげると目の前にそびえ立つ槍ヶ岳。悲しくも独り天を貫かんとするその姿は、山を覚えた一回生の時からいつぞや登りたいと夢見たあの槍ヶ岳であった――。

今年の夏合宿では槍を常に眺めながら北アルプスを満喫するという趣旨で party を発足し、私は P.L.として合宿運営を任されました。念願であった槍ヶ岳頂上の一度目は曇ってしまい残念でしたが、翌朝の再登頂では三次予備で登った常念山脈は勿論、白馬三山、中央・南アルプス、富士山、果ては白山まで見渡せました。

休養日の次の日にピストンした鷲羽岳では立山・剱岳、水晶、黒部五郎、薬師岳など数々の名峰が見渡せました。孤高の人ではないですが、青空の下に広がる山々はさながらオーケストラのようでした。

最終日の笠ヶ岳では念願のご来光を臨むことができ朝日に染まる槍・穂高、乗鞍・御嶽を目近にできた夏合宿の締めに相応しい眺めでした。合宿の趣旨は見事達成され、槍登頂、ご来光、雨の降らない山行という念願が三つも叶いました。一回生の朝日に照らされた笑顔を見ると、前期練成を頑張ってくれた下級生へのご褒美だったのだと思います。今合宿は何かとリーダーの未熟さを思い知らされ

る合宿でしたが、けが人なく無事に終わりとても良い合宿になったと思います。
(3Party PL　理　53 期　佐野雅也)

## ○*北岳(１Party)*

今回の合宿はとても思い出に残る合宿になりました。美しい景色をたくさん見ることができました。その中でも特に印象に残ったのは休養日に肩の小屋から凍えそうになりながら見た日の出です。雲海も出ていてとても神秘的でした。また、運よく雷鳥を見ることができてうれしかったです。

(基　55期　北野翔大)

素晴らしかったこと、それはなんといっても山での景色です。まず普段の眺めが最高です。見渡す限り山と雲でなんとも壮大な景色でした。山の稜線がずっと続いているのを見ていると、自然の凄さに感じ入りました。それから雲海。まさに雲の海という様で雲が広がっているのです。またところどころ雲から顔を出している山が、まるで海に浮かぶ島のように見えて（PL さん曰く戦艦らしいですが）とても面白かったです。他にも山の上から見る日の出や、夜中に起きて見た星空、北岳や農鳥岳からの富士山、農鳥岳からの北岳と間ノ岳など、普段の生活では絶対に見られない景色が沢山見られて楽しかったです。

(理　55 期　市川智輝)

## ○*槍ヶ岳(２,３Party)*

今回の夏合宿は、僕にとって初めての予備合宿以外の合宿だったので、とても楽しみにしていました。2 日目と３日目は急な登りや長いコースでだいぶばててしまいましたが、初めてのコースリーの経験や、槍ヶ岳山荘から槍ヶ岳までのいつもと違った山行などは楽しかったです。何より槍ヶ岳からの景色や雲ヶ平のきれいな風景は最高でした。

(基　55期　多田昌洋)

一週間ずっと晴れで、雲海などの様々なきれいな景色を見れてとにかくサイコーでした。特に印象に残ったのは、槍ヶ岳からの景色です。まず驚いたのは、山荘から山頂までの登山道が異常なほどに急だったことで、手をすべらせたりしないかハラハラしながら登りました。そして頂上に到着！！　ここからの景色はこの上なく絶景でずっとこの場にとどまっていたいくらいでした。３次予備のルートやこれから行くルートもきれいに見えました。来年の夏合宿もこのくらいきれいな景色を見たいです。

(理　55期　笹原貴志)

印象に残っているのは、槍ヶ岳と笠ヶ岳から見た朝日です。三次予備の景色で割と満足していましたが、初めて見た晴れた高山の景色は全然違い、感動しました。休養日前日も晴れたため、夜遅くまで満天の星空を見ることができ最高でした。休養日の食事ではホットケーキ、パン、お好み焼き、とどれもクオリティが高くおいしかったです。合宿のために下調べをしたり、重い荷物を運んでくれたリーダーさんや２回生に感謝します。

(基　55期　大江康子)

この合宿は、阪大ワンゲルのメインイベントでもあり、とても楽しみにしていた合宿でした。長野県上高地に着き、目指すは日本百名山の一つであり、日本で５番目に高い山、槍ヶ岳(3180m)　そして人生初の 3000m 峰。僕はこういう山に登るために、ワンゲルに入ったわけなので、夏合宿序盤はとても張り切って登りました。下から見える槍ヶ岳はとても雄大でした。あんな尖った所に人間が立つ事が出来るのか　そんな事を考えているうちに、皆の頑張りで、予定よりかなり早く槍ヶ岳山荘に到着し、槍に登る事に。　山があまりに険しいので空荷で登ることになったのですが、あまりの軽さに全員が(一人を除く)駆け上がるように登っていき、遂に登頂！！　景色が非常に奇麗との話を聞いていたのですが、下の景色を見ると、曇っていて何も見えませんでした。
でも、次の日の朝日は最高に奇麗でした。

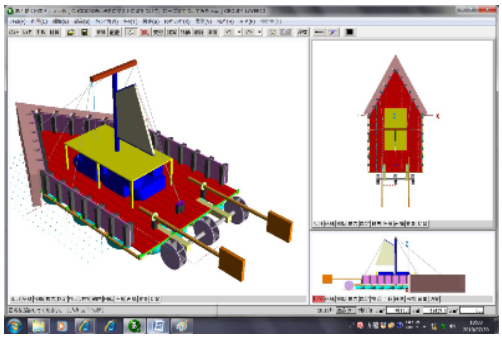
(基　55期　五十嵐尋)

■ ―――――――――――――――――――――――――――――――――――――― ■

2010/9/15～22 夏PW
～七転八倒～

■ ―――――――――――――――――――――――――――――――――――――― ■

去年に続き 2 回目の四万十川筏合宿でした。今回も前回に続き筏の設計を担当したのですが、昨年度に 2D の CAD を使ったところ、立体的な認識が難しかったので今回は 3D の CAD を使って設計しました。テスト期間中に DL してから夢中に作業していたらガチな設計図が出来て個人的には満足だったのですが、リーダーさんや他のメンバーには「凝りすぎ」「必要なくないか？」と言われてしまったり。いざ作り始めるとまぁ予想していた通りにはいきませんでした。結局出航を見送るわけにはいかなかったので未完成のまま出発したのが若干不満でした…が、しょうがないです。帆が割と仕事をしてくれたおかげでちょいちょい楽に進んでくれました。工場を借りてまで作った足こぎペダルは、予想通り溶接面の強度が足りず剥離して壊れました。来年への良い教訓・失敗材料です。



合宿全般としては最高でした！ずっと晴れで気持ちよく合宿を過ごせ、たまにある瀬ではスリリングな体験が出来、本当に成功と言える合宿だったと思います。

(企画責任者　工　54期　西尾健)

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

一生懸命漕がなければ進まないところが多かったり、瀬や浅瀬で筏に負担がかかってタイヤが数個パンクしたりで、大きなトラブルこそなかったものの振り返ればいろいろと苦労させられた合宿でした。しかし、メンバー全員が、疲れたと言いながらも最後まで頑張り通してくれたおかげで、見事目標としていた四万十川の完走を果たしました。行動中は天候に恵まれ、9 月の中旬とはいえ例年より暑かったことも手伝って、川下りを心の底から楽しむことができました。夏合宿も含めて今年の夏は実り多い活動ができたと思っております。

(工　53期　鈴木翔悟)

はじめての山以外の合宿だったので、なにもかもが新鮮でした。四万十川の流れはゆるやかで、時にはイカダからおりてイカダを押す・引っ張るといったことも行いました。イカダ合宿とはイカダの上でのんびりするものである、と思い込んでいた自分は愚かでした。幸い、全日程快晴であったので、浅瀬や急流で体が濡れることがあっても何の問題もなく、むしろ気持ちよく過ごすことができました。

(法　55期　野田英明)

いかがでしたか？今回のメルマガはまさに、夏一色。しかし一色といっても、山ほどある絵具の中から選んで、キャンバスをみずみずしく彩った色は、ひとりひとりによって異なり、どれひとつとして同じ色はありません。誰もが“自分色”で夏を色づけしたからです。

大学生という、ある意味、子どもにも大人にもカテゴライズされない“宙ぶらりん”な時期においてこそ、さまざまな制限や障害に左右されることなく、本当に純粋に今自分のしたいことを探し、選択して、実際に楽しむことができるのだと思います。そういう点でワンダーフォーゲル部の活動が大きな意味や役割を担っていることはいうまでもありません。

去年の夏、今年の夏、そして来年の夏。夏、という季節は毎年変わりなく僕たちのもとへ四季の二番目の季節として巡ってきますが、人間のこころに記憶として残る夏は二度ともう一周して返ってくることはなく、どれもかけがえのないものになるのだと信じています。僕たちの今年の夏もまさに、どの夏とも交換することが不可能な、自分の色で輝いた季節であったといえるでしょう。

---

さて、前回のアンケートでは「ワンゲルをやっていて良かった！！と心底思った瞬間」についてお聞きしました。自然の偉大さにふれ、山頂からの壮大な景色を目にして感動した経験、退部後も一緒に山に登ったり、山談義で盛り上がることのできる稀有な仲間が得られたこと、リーダー務めることで、社会に出てからの処世術が一通り身に着き、企画・実行・報告という基本的な仕事の流れを学べた…等々、多彩な回答をいただきました。ワンゲル活動の意義は豊かにあるのだなあと感じました。引退後も、気の置けない仲間と山に行きたいです。沢山のご回答ありがとうございました。

今、私たちは迫る秋合宿（とリーダー養成合宿Ⅰ）に向けて忙しく準備を進めています。皆さんの特に思い出深い秋・春合宿はどのようなものでしたか？今回も是非、アンケートにご協力ください。こちらまでよろしくお願いします↓

≪ http://www.ouwv.org/enquete/enqform1010.html ≫

今回のメルマガを最後に54期の田村と井田から、55期の笹原と大江へメルマガ委員が交代することになりました。毎回、日々のドタバタのなか、ふたりで分担しながら仕上げてきたので、なかなか統一感のある良質な記事をお届けすることができなかったかもしれません。それにもかかわらずOBOGのかたがたが丁寧にアンケートに答えていただいたり、直接励ましていただいたりしたことがどれほど僕たちの活力源になったことか・・・読んでくださった皆さまに心からの感謝をしたいと思います。今まで有難うございました。引き続きワンゲル活動の様子を節目ごとにお伝えしてゆきますので、これからも応援をよろしくお願いします。

ギャラリーページリンク
≪ http://www.ouwv.org/mailmagazine/gallery1010.html ≫

メルマガ委員：田村・井田